

ロジスティクスについて

ロジスティクス (logistics) とは何か？

- もともとは兵站を意味する軍事用語。戦闘部隊の移動や支援を計画し、実施する活動を指す。たとえば、物資の配給や整備、兵員の展開や衛生、施設の構築や維持なども含む。
- 企業が、原材料の調達から生産・在庫・販売まで、物流を効率的に行う管理システム

「ひょうご DPAT」では、病院職員等で構成されるチームに県職員がロジスティクスの担当者として加わる。その職員を役職名としてロジスティクス（通称ロジ）と呼ぶ。

DPAT 活動におけるロジスティクスは資源と情報の管理を行う

- DPAT が活動を行うためのマネージメント業務
- 派遣先に負担をかけない自己完結性を確保

[ロジスティクスの業務]

- ・ チームの通信手段、移動手段、活動環境の確保
- ・ DPAT 調整本部・活動拠点本部との連絡調整
- ・ 派遣先関係諸機関との情報共有、連絡調整
- ・ 関連機材、必要物資の調達と管理
- ・ 派遣先における情報の収集と記録、伝達
- ・ 記録、データの管理
- ・ チーム内の調整

ロジスティクスの業務は、被災地のニーズに合わせて「適切な時(Right Time)」「適切な場所(Right Place)」に「適切な人(Right Person)」「適切な機材(Right Materials)」を輸送し「適切な情報」(Right information)を収集・伝達・共有し、「適切な調整・協力(Right Coordination and Cooperation)」をマネージメントする大切な業務である。

ロジスティクス業務の進め方

1 活動準備

DPAT チームが支援活動を行うための準備を行う。そこには、派遣先の情報収集やチームの安全な移動、派遣先での生活環境の確保、通信手段をはじめとした活動に必要な物品の準備が含まれる。県の DPAT 準備機材リストはマニュアル p.47～48 に記載されている。被災状況に応じて必要な物品を用意する。また、派遣前に確認すべき情報には以下のようなものがある。

[確認すべき情報]

- ・ アクセス…道路状況／公共交通機関／空路
- ・ ハザード…危険物／二次災害の可能性
- ・ ライフライン…電気／水道・トイレ／通信／燃料・食料
- ・ 被災状況…災害規模／被害状況／避難者数／精神科医療機関・避難所の状況
- ・ 支援状況…医療チームの活動状況／現地保健所の様子
- ・ 支援ニーズ…支援ニーズの把握（病院／避難所／他）

2 通信の確保

派遣先の状況に合わせてパソコン、携帯電話、トランシーバー、衛生携帯電話等の通信手段を確保する。現在のところ DPAT 活動における情報管理は情報共有ツール DMHISS を使用する。（マニュアル p.16, p.20, p.40～46 参照）。今後、EMIS（広域災害救急医療情報システム）の活用を主体とした運用が検討されている。

3 連絡調整・情報収集

派遣先では、現地の調整本部、活動拠点本部の指揮下に入り、連絡を密にして活動する。定時連絡の時間を定めておくことよい。また派遣先で連携して活動する諸機関との情報交換や情報共有を行う。さらに支援者が集まるミーティングの場や外部支援者団体等の窓口等で得られる情報、また避難所等で聞こえてくる情報にも耳を傾け、現状を把握する（マニュアル p.22）。被災地における情報収集は、安全かつ有効な活動に必須である。

4 記録・報告

活動を通して得られた情報は取り扱いに注意し、記録、管理する。決められた先に確実に報告を行う。（マニュアル p.16～17）。被災地では必要な情報の不足、過多、錯綜などが起こりやすく、情報を適切に扱う強い意識が必要である。

5 物品の管理・現場での移動

関連機材や必要物品の管理はチーム員で分担して行うが、全体としてロジがそれを把握し、物品の補充が必要な場合には、派遣元である県の調整本部等に連絡して調達を行う。特に医薬品の管理には注意を払い、医薬品管理簿（マニュアル p.39）を活用して厳正に管理する。また、安全に活動場所まで移動できる手段、方法の情報を収集するのもロジが中心となって担う業務である。